

# えっくす君が見た環境万博

EXPO 2005 AICHI JAPAN

キラキラと輝く水面、目にまぶしい鮮やかな緑。それは、古来マンモスの時代より、IT・ロボット達が活躍する現在まで、脈々と続く地球の営み。その大なる自然と共生するための叡智の結集がここ、愛知万博で見られるよ！自然の恵みって、普段あまり気にしていないよね。でも、「『循環型社会』を目指す」とは限りある資源を大切に使うよう、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を合

い言葉に、環境に、地球に優しくなるうってことなんだ。

## 愛・地球博 [開催期間:3.25~9.25]



●中部千年共生村  
中部千年共生村には、中部9県が  
出展しています。



▲“飲み残し水”を入れるゴミ箱も  
あります。



会場から出されたゴミの約85%を  
資源としてリサイクルしています。



▲グローバル・トラム  
バッテリー駆動で、車椅子  
利用者も乗車できるよう、  
配慮されています。



▲長久手会場をほぼ水平に一周できる空中の回廊「グローバル・ループ」  
全長約2.6km、標準幅約21m



▲長久手会場の北エントランスデッキからひろがる  
屋根付回廊。床、柱、天井のほとんどが木（廃棄材や  
スギの間伐材も使用）で作られています。



◀自転車タクシー  
排気ガスを出さない、  
人と電気で動く無公害  
三輪タクシー



三重大学が協力している  
中部千年共生村の  
展示をみてきました  
是非、皆も行って見て!!

三重県のブース「千年の環」では、  
見つめ直せ!!海と山の未来に続くライフサイクル  
について展示されています。

里海のスローサイクル  
海辺の復活 英虞湾再生プロジェクト  
(三重大学生物資源学部 前川研究室)

里山のスローサイクル  
紙から木へ 未来のリサイクルシステム  
(三重大学生物資源学部 船岡研究室)

8月26日[金]~30日[火]  
三重のワークショップで体験 紙が木に変身!  
—新素材作りかほの実験—



海に群生する植物“アマモ”は、海の水をきれいにし、内海にすむカニ、貝、魚などの住み家や産卵場となったり、大きな魚から身を守ってくれます。



3つの物質からできている「木」。  
いままで捨てていた「リグニン」からリサイクル  
することで、紙が木になったり、服や薬になるん  
だって…。

期間 6月9日→19日

●会場/モリゾーキッコロメッセ●  
プロタイプロボット展  
健康食品アドバイザーロボット

食品の成分や味を分析する  
味覚を持つパートナーロボット

NECシステムテクノロジー株式会社  
三重大学生物資源学部 橋本研究室

このロボットは、人間の“舌”に相当する部分に“赤外線センサー”をもっています。センサーで得られた情報を使って、ロボットが食料や食品の成分を調べたり、味見をしたり、家族の健康のアドバイスを行ったりすることもできます。

期間 8月15日・16日

EXPOドームに  
ロボット大集合

●国際Jr.ロボコン大会の優秀ロボットが集合  
●来場者には、ロボット操作の体験ができます。  
★詳しくは、P23★  
共催/三重大学 工学部・教育学部・生物資源学部

僕たちも行ってきたよ!

万博の感動を伝える  
附属小学校ジュニア特派員

▲2005.4.25 読売地球新聞 「三重大附属小6年生新聞」から  
万博開催中、公募で決まった全国の小中学生が毎日、ジュニア特派員として活躍。6年A組37人も4月25日に会場を訪れ、宇宙服体験チームとロボットステーションチームに分かれて取材。